

事例5 保健センターを中心とした支援の推進—健やかな親子関係の確立支援を目指して—

母親の育児不安の解消と子どもの健やかな成長のために、妊娠期から一貫した母子支援事業を展開している。特に、妊娠期及び乳幼児を持つ母親がリラックスして育児ができるよう、精神的・身体的支援の充実を図り、母親の育児環境を整えるとともに、家族・地域に対しても、母乳育児の重要性を伝え、地域ぐるみで応援する環境づくりの整備を図っている。

〈母乳育児支援の推進例〉

市の概況：人口 66,064 人、年間出生数 662 人、出生率 10.0(出生数千対)

平成9年：妊婦教室に母乳育児の講話と助産師による乳房ケアを導入。

妊婦の食事調査を実施。両親学級を開講し、父親の育児参加を支援。助産師の講話と実技を導入。赤ちゃん学級を開講し、小児科医の講話等により育児不安の軽減に向けた支援。

○平成12年：「おっぱい育児支援事業」として総合的な取組を開始。

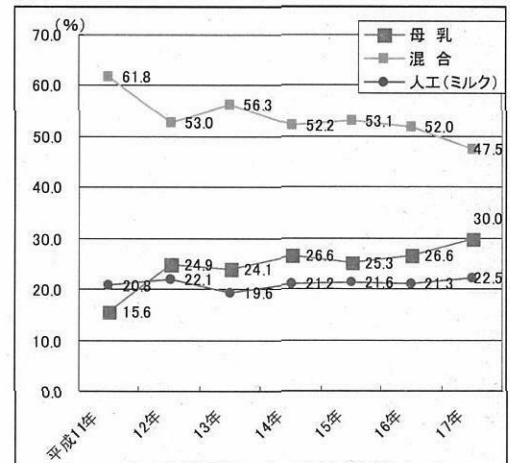
(教室) おっぱい育児教室を開講し、個別の乳房ケアと育児指導を実施。赤ちゃん学級を、個別支援と仲間作りの場とする。

(親の会) 1歳までの育児サロンを月1回開設し育児不安を支援。1歳以上の親子サロンを月1回開設し親の会の育成を支援。

(基盤整備) 情報提供の推進(母子手帳交付時にパンフレット配布等)。産婦人科医との連絡会議を開催(年1回)。小児科医との連絡会議を開催(年1回)。芳賀赤十字病院「おっぱい外来」との連携推進。三つ子の魂育成推進室を設置し、地域全体で支える体制を整備。

○平成15年：子育て相談(月1回)で母乳育児相談を開始。離乳食教室を開講し、食生活や子育て全体を支援。生後2ヶ月までの乳児に電話育児相談を実施。

○平成17年：妊娠届出時に全妊婦と面接。アンケート調査によりハイリスク妊婦の早期発見と早期支援に取り組む。各教室のスタッフの充実を図り、母親の精神的・身体的支援をきめ細かに実施する体制を整備。



4か月健診における栄養方法の年次推移(平成11年～17年)

母乳育児の推進 —健やかな親子関係の確立支援—

(平成9年 真岡市の母子保健計画) より)

(事例提供：真岡市)